

■ 丹波市立看護専門学校 大垣さん、根本さん

私たちは、4つ提案させていただきます。

1つ目は、グランピング施設を作るです。

現在、丹波市には市島、青垣、柏原におそらくあるはずなんですけど、それをさらに活性化させていくということです。

グランピングはもともと欧米などで人気があり、近年日本でも人気となっており、最近では、若者が友達や恋人同士で楽しむ方が多い印象です。

そこで、丹波市は自然が豊かであることからグランピング施設を作ることに適していると考えます。まずメリットとして、

1つ目は、丹波市の田舎で生活することの良さを再認識するきっかけになること。

2つ目は、丹波市の持つ豊かな自然を最大限に活用できること。

3つ目は、丹波市出身でない人にも、丹波市のことを知るきっかけになること。

4つ目は、丹波市を訪れる機会が増えれば、市内の施設を利用してもらうきっかけとなることなどが挙げられます。

丹波市から転出する人は、神戸大阪などの都市部に転出する人が多いです。

都市部では綺麗な星空、田舎で感じられる静かさ、空気のおいしさなど自然を感じることができないため、グランピングを通して、「やっぱり丹波市で生活することがいいな」と感じることで、できるきっかけづくりが必要だと思い、提案しました。

2つ目は、季節ごとに楽しめる催しを企画運営し、若者への周知を工夫することです。

県の施設である丹波の森公苑、年輪の里は、丹波市の自然を生かした催しを開催されていますが、若者に周知されていないことが多いと感じます。

若者が容易に情報を得られる情報発信の仕方を工夫すれば、若者が催しに参加して、出会いの場になると思います。

例えば、SNSの効果的な活用として、ラインやインスタグラム、TikTok、フェイスブック、ホームページ、YouTubeなどを活用することが良いと思いました。

また、季節ごとに楽しめる催し物ということで、春は植物園、夏はキャンプやグランピング、花火大会。秋は丹波栗を使用したスイーツをつくる。冬は雪を利用したもの、例えば、雪合戦などがいいのではないかと考えました。

3つ目は、夜に営業しているカフェを作って欲しいということです。

丹波市内にあるカフェは、夕方に閉店するカフェが多く、平日の夜に友人と集まって会話をしたりする場所が少なく感じます。

そのため市外に出て遊ぶことがどうしても多くなっています。

若者が丹波市に残るようには、22 時ごろまで空いているおしゃれなカフェをつくることができれば、丹波市に残ってくれる若者も増えるのではないかなと考えました。

4つ目は、図書館の閉館時間を延長して欲しいということです。

学生が本来しないといけないことは勉強することだと思います。

特に看護の勉強は、自分が勉強して理解しているかどうか、直接患者さんに影響を及ぼすことになります。

そのため、集中して勉強することが求められますが、自宅で勉強することがベストだとは思いますが、集中できないときに、自宅以外で勉強できる場所を探しています。

丹波市の図書館は、夕方には閉館となるため、滞在することができません。

町の住民センターは 22 時頃まで開館しているので、場所は確保できますが、狭い空間に多くの生徒がいることや、来館者が近くを通るため、勉強に集中しにくい状況です。

試験前などは静かな場所で集中して勉強に励むことができる場所を作って欲しいなと考えました。

■市長回答

1 つ目のグランピングについてです。

気軽に楽しめるアウトドアとして、急速に人気が高まっていると私も思っています。水や空気が綺麗で自然豊かな丹波市なら、グランピングに適しているのではというご提案いただきました。

私も本当にそうだと思います。

先日も市島地域に民間事業者によるグランピング施設ができるとの報道がありました。

このような施設が市内に増えていくことを期待しております。

またグランピングだけでなく、市内には自然の中で、キャンプやバーベキューをする施設はありますので、そういうところも、もっと利用して欲しいと思っています。

2 つ目の若者への情報発信について。

これは丹波市の大きな課題だと思っています。

見せ方がちょっと下手だなとも私も思ってます。丹波市でも色々なイベントを行っていますが、若者をはじめ、多くの人に情報が伝わっていないと感じています。

丹波市では LINE やフェイスブックなどの SNS で情報発信をしています。

若者の登録者を増やし、心に刺さるような情報発信がどうしたらできるか、良い案をお持ちであれば教えていただきたいと思っています。

私は毎日、山に登り、Facebook で発信しているんですけども、だいたい「いいね」を貰うのは 150 から 200 ぐらいです。そこからなかなか増えないなというふうに思っています。

若い人たちが飛びつくようなアップの仕方があれば、教えていただきたいです。

3つ目の夜遅くまで営業するおしゃれなカフェについてです。

丹波市で、夜遅くまで空いてるカフェを作ることはできませんが、市では、起業を支援する制度あります。このような制度を利用して、ぜひ若い人に起業していただくことを期待していきたいと思っています。

4つ目の図書館の開館時間の延長についてです。

昨年の市政広聴会でも看護専門学校の図書館についてご意見をいただきました。

その後、検討を重ね、夏休みなどの長期休業中でも利用できるように見直しを行いました。

今回のご意見も研究をいたしますが、公共施設はオープンな場所が基本です。静かな環境を提供することは難しいと思っていますが引き続き検討をしていきたいと思っています。

■ 丹波市立看護専門学校 大垣さん、根本さん

さきほどの市長さんの質問で、LINE とかフェイスブックで情報発信されてるんですけど、もっといい方法があるというのについてです。

今はフェイスブックよりもインスタグラムの方が若者は使用頻度が多いと思います。

例えば、柏原高校では体育祭のときに、インスタグラムを活用してライブ配信などをされていました。丹波市でも、催し物をしたときにライブ配信をされると、ライブを通してまず丹波市について知ることができ、そこから興味がわいたり、丹波市に帰ろうかなというふうな人が増えるんじゃないかなと思います。

■ 市長回答

インスタグラムが若者に受けているという話は知っています。私は自分の身分とか、どういう立場だということを明らかにして、きちっとした情報を送るというような感じなので、フェイスブックにしたんですけども、今は政治家の人もインスタをやっているの、また研究したいと思っています。

■ 福知山公立大学3年 加賀山さん

私の出身は丹波市柏原町で、現在も実家から車で通学しています。

私が丹波市で暮らしてきて感じることは、交通面の不便さです。

私は柏原高校出身なのですが、学生時代は電車の本数が少なく、他の町から電車に乗ってくる学生の多くが不便であると言っていました。

また、バスにおいても、電車と同様のことが言えると思います。

これらを踏まえて、丹波市内を移動するためには、車が必須であることが現状と考えます。

この現状から、私たちのような若い世代や高校生以下の世代は、車の免許を持っていない方が多いため、とても移動手段に困ります。

これは他の世代においても、車がなければ、移動手段に困ることに変わりありません。
そこで、交通面における不便さを改善してもらうことで、今以上に暮らしやすい丹波市になると思います。

■市長回答

都市部と違い、電車が1時間に一本だと不便に感じると思います。

しかし、不便だからといって、乗らないとますます本数は減ってしまいます。

この4月にJR西日本赤字ローカル線の発表したように、走って当たり前の時代ではなくなってきました。

いわゆる鉄道ですね、線路を通るところが大量輸送できるということでは、今まで重宝していたんですけども、きめ細かなサービスということはなかなか難しくなってきたというのは現実です。私たちが大事にしないといけないことは、限られた資源を賢く有効に使うことだというふうに思います。（15：00）

私も春日町出身です。黒井駅から柏原駅まで行って、それから柏原高校まで歩いて通学していました。確かに、1時間に1本しか電車がいないので乗り遅れたら1時間、柏原駅で待つことも何度もありました。私クラブ活動バスケット部をしていましたので、先輩に「すみません」と言って全速力で走ってやっと柏原駅で電車に乗ってねなんていうことがありました。

加賀山さんがおっしゃる不便さというのはよくわかります。

3年生になったら自転車を通ったりもしました。そういうことも自分たちで工夫するということがだんだん大事になります。

なかなかバスの時間がわからないと言われてました。

丹波市では今ね、「てくてくたんば」という冊子を各家庭に配って利用していただくようにしています。

賢く有効に、今ある施設を使ってもらえるように、鉄道や路線バス、その他公共交通の時刻や料金ルートなど、さまざまな交通情報を掲載しています

「てくてく丹波」を全世帯に配っています。家でも探してみてください。市役所や公共施設にも置いてますので、一度見てください。丹波市の公共交通の事が全部書いてあります。

ちなみに、路線バスの延べ利用者は平成25年度の約96,000人から年々減り続け、令和2年度では約48,000人でした。半数まで減っていました。そうすると、バスの本数なども減ってしまうので

すが、令和元年度には通学定期補助やバス路線の再編、バス停の新設など多くの取り組みを行っ

た結果、令和3年度では約72,000人に回復しています。

私たちも、バスの路線の充実を掲げて、バスの乗客は少しずつ増加しているのは実感しています。引き続き有効な施策を考えていきたいと思っています。

■ 福知山公立大学3年 加賀山さん

まず、市長のお話を聞き、おっしゃる通りだなと思いました。やっぱ乗らないと、本数は増えないし、減っていく一方であるってことを聞き、私は今、車で通学してますけど、電車でもたまには通うかなと思いました。

私の案としてはその電車やバスは、乗らないといけないですが、別でレンタルサイクル的な自転車を、設置することで少しでも移動手段ができたりして、改善されるのではないかと思います。

■ 市長回答

丹波市では現在、レンタサイクルを設置しているところはないと思います。

私の知り合いで全国各地を旅している人がいます。その人が言うには「レンタサイクルはすごく便利、観光地を回るのにバスとかのダイヤがうまくいかないこともある。その点、レンタサイクルはすごく大事で重宝している」ということを聞いてます。丹波市も導入を検討してもいいのかなと考えます。

なかなか難しい話ですが、例えば今、道の駅に、バスや車で訪れ、そこから周遊する案内はしていますが、電車で来た人のために、レンタサイクルがどこまで活用できるかどうか検討したいと思います。

今加賀山くんが言ってくれた、たまには電車で行きたいなと思いますというような話で、私も月に1回は22日はノーマイカーデーということで、黒井駅まで行って黒井駅から石生駅まで電車に乗って、石生駅からバスに乗って市役所に通勤しています。毎日でもすればいいんですけど、加賀山くんの指摘のとおり、やっぱり車は便利なので、どうしても車になってしまう。せめて月に1回でもということで、実践していますので、加賀山君も月に1回くらいは電車で通学していただいたらありがたいと思います。

■ 兵庫県立大学減災復興政策研究科 北脇さん

私の発表の内容はこれまでの活動と丹波市の魅力についてです。

丹波市への提言、まずこれまでの活動について説明します。

災害メモリアクション神戸では、丹波市豪雨災害における避難のあり方を現地でのインタビューと調査によって発表いたしました。

大学の卒業論文では、丹波豪雨災害における地域コミュニティの結束力がおよぼした影響力についてまとめました。

大学院のレポート課題では、丹波市豪雨災害の自治体の災害対応、特に避難勧告発令判断が避難に与えた影響について、レポートにまとめました。

今日は特にこの一番上の災害メモリアクション神戸 2021 に着目して活動を説明したいと思います。

2014年8月の丹波豪雨災害について、災害当時の自治会長と市役所職員、住民の方々からインタビューを行い、現地の調査や災害当時の写真と、今の風景を比較して、調査を行いました。

こちらインタビュー風景であります。

これらの活動を踏まえて丹波市の魅力と感じたことを二つ説明します。

まず、中山間地域、特にこの災害と隣り合わせであることを、この災害、自然の恩恵、自然の豊かさが魅力だなと感じました。

また、田舎ならではの地域の繋がり、顔を合わせる機会の多さというのは地域コミュニティの維持に繋がっていると思います。

また会話の節々で地域の文化を大事にしているのだなということを感じられました。

最後に丹波市への提言として、自然豊かな、いわゆる田舎と都会をまず別々に考えることで、地域のよさを伸ばすことに重点を置いて欲しいと思いました。

その点においてやはりこの、丹波地域が都会として、人の集まる地として発展していくというよりも、他市と協力をし、そちらの方に、都会というか人の集まる地として発展していただいて特にこの丹波市は、京都府と接しているのでそのことを生かした取り組みという考えで、併存的な考えができればなと思っています。

■市長回答

これからの自治体は、一つの町でフルセットの環境を作って、単独で生きていくことは不可能だというふうに丹波市も思っております。

北脇さんのご意見の通り、併存、私達は自治体連携という言葉で言っておりますけども、それぞれが役割分担し、ともに歩みを進めていく必要があると考えてます。

丹波市も兵庫県丹波地域と亀岡市などの京都丹波地域の6市1町で構成する大丹波連携や、福知山市や朝来市との3市連携、また丹波篠山市とは、丹波の森協会を通して一緒に活動しています。いろいろな自治体連携、さらに関大、関学、そのほか、たくさんの大学との大学連携や高校連携も行い、協力関係を作っています。

これからも併存に向けて、近隣市町だけでなく、いろいろな連携をしたいと考えています。

北脇さんから見てですね、先ほどの提案にも少しありましたけど、丹波市の今ある魅力伸びしろ、こういうことしたらもっと伸びるんじゃないかなというようなことがあったらお聞かせ願いたいと思います。

また、市島の丹波豪雨について、本当によく調べていただいたようでございます。私は丹波豪雨の時に、地域のコミュニティがしっかりしていたから、復興などで大変役に立ったし、避難についてもやっぱり地域のコミュニティがしっかりしてたという風に思ってます。

丹波市は、これからも地域のコミュニティの協力を続け、しっかりとした地域づくりを今やっているとこです。

■兵庫県立大学減災復興政策研究科 北脇さん

活動を通じて感じたことですが、自治会長の方が言っていた丹波市で、日頃行っているのは心がけている九つのルールみたいなこと言っていて、「顔を合わせたときに挨拶をする」「近隣の家族の名前を覚える」「何気ない親切を日頃から実行する」などの細かい内容のことですが、意外とそうい

うことは、部会に住んでる人できてないなと思います。こういうことは、変わらずずっと続けていて欲しくて、こういう今変化をしようとしてる場で言うことではないんですけど、僕あんまり丹波市に変わって欲しくないというか、こういう今ある繋がりをずっと持っていて欲しいので、変に、他の、外部から人が入ってくると、そういう繋がりがってというのはどうしてもなくなってきそうだなと思ってるので、あんまり僕は、発展というかそういうのは求めず、今あるものを、そういう自然であつたり、繋がりがってものを長く残していつて欲しいなと思います。

■市長

丹波市のいいところは、地域が子供を育てるところがあつて、学校から子供市が帰るのに、「おかえりっ」と声かけると子どもたちも「帰りました」と声かける。これはすごく良いことだと私は思っています。

常に僕は「挨拶をしっかりしましょう」ということを職員に言っています。

子どものころから「帰りました」「おかえり」これをね、しっかりとやることで、地域愛も生まれ、良いことだと思います。今おっしゃったような他から人が入ってもらったら困るというのはありませんけど、まあそういう他から入ってきた人も、しっかりと仲間に引き込み、丹波市の良さを続けていければと思っています。

■ 武庫川女子大学生活環境学科4年生 井上さんと上田さん

私たちはまちづくりコースに所属しています。

まず私たちの活動内容について、2人を代表して井上から報告いたします。

私たちは、新しい命の誕生を全市民で祝うというコンセプトのもと、子どもが生まれた家庭に丹波市の木でできた木製おもちゃを送るっていう、丹波市のハッピーバース応援ギフト事業に、おもちゃのデザインのアイデアを提案したり、おもちゃの普及に携わるだけではなく、まちづくりという大きな観点から、木材の活用に関する提案に授業で取り組んでいます。

これらの取り組みは丹波市や地元の事業者の方と、武庫川女子大学が一体となって、丹波市の木材を活用したブランディング事業というものに発展し、実際に学生の提案が事業に提案採択されたりしています。

2022年度は、武庫川女子大学まちづくりコースの5名が、卒業研究で継続的に取り組んでいます。

私たちの研究内容は、丹波市産の木を食べるというプロジェクトです。

この研究の簡単な説明とそれに関連した意見や提案を述べます。

まず、この木を食べるプロジェクトについて説明します。

私たちは製材時に発生する細かい木のおがくずを加工し、それを食品にするという研究を行っています。木を食べるということには前例があります。他の県とかで行われているんですけど、木のお酒を作っている方や、同じように木を粉状にして販売している方もいらっしゃいます。

私たちは、それを丹波でやって丹波の木を広める一つの方法として、また林業に興味を持ってもら

うきっかけとして、丹波市の株式会社木栄さんと一緒に、この研究を進めています。
試作段階まで進んでいるので、今後は食品化や販売に向けて、まだ課題がたくさんあるので一つずつ解決できたらいいなと考えています。

次に、今回の意見と提案について1人ずつ述べさせていただきます。

まず私井上からの意見と提案で、私は川西市に住んでいて、丹波市にはキャンプに家族きたりしますが、いつも自然が豊かだなと思います。

大学生になってまた丹波市に研究という形で関わるようになってからも何度か学校の研究で丹波市を訪れていますが、毎日都会で過ごしていて、せわしない生活を、丹波に行くとすごい時間を忘れて、ゆっくりできるというような印象があります。

特に感じるのは、山があり、木に囲まれたあたたかい場所だなという特性です。

提案として、丹波市に休日に遊びに行ったり、そのイベントをたくさんやられていると思うんですけど、そういう特別な日に行くだけではなくて、このまちに住みたいと思わせなければならないなと思います。それには若い人が常に多く集まる場があれば、良いのではないかと考えています。
例えば起業したい人、今はテレワークも普及してきました。それを応援する仕組みや、自分の店を開いてみたいなど、同じような志を持った若い人たちが、そういう起業や新しい活動を始める場があると、その場所に若い人が集まるのではないかと考えています。

次に上田さん、お願いします。

私の意見としては、丹波市は自然豊かで穏やかな空気感が非常に魅力的だと思いました。

初めて丹波市を訪れた際には、自然の香りとか、鳥や植物が風で揺れる音といった普段自分が暮らす場所では感じる事ができない、穏やかな空気感に非常に心を奪われたの覚えています。

幼いころからこういったまちで暮らすってということが、感性が豊かにすることに繋がるのではという良い印象を持ちました。

私は奈良県に住んでいるので、外からの意見にはなるのですが、住みたい場所になるには、まず丹波市を気軽に訪れやすい場所にして、実際に良さを体感してもらうことが必要だと考えています。
一度丹波の自然の豊かな所を見ると魅力がわかりますが、そもそも車がないと訪れることが難しく、魅力を体感してもらいにくいというふうに思いました。

すでにイベントやマルシェはいくつか開催されていますが、車を持たない若い世代にとっては、公共交通機関のみでの移動が大変となると、足が遠のいてしまうといった印象受けることもあります。

実際に住むにあたって「自宅から駅までが遠い」「電車の本数が少ない」という点を懸念する人

は、私を含め多数いらっしゃると思います。

しかし大学の授業で丹波を訪れた際には、非常にいい場所だと思ったので、より一層気軽さが増すよう交通手段の見直しや強化があればいいかなと思っています。

■市長回答

丹波市のことを色々と研究していただきありがとうございます。何度も視察や観光に来ていただいたようでありがとうございます。

ご提案の若い人が集まる場所は、ぜひ欲しいと思っています。

さらに、若い起業家が集まってくれば、新しいにぎわいができるんじゃないかというふうに思っています。

丹波市では、兵庫県丹波県民局と一緒に、アメリカのシリコンバレーをなぞり、「シリ丹バレー構想」というプロジェクトを立ち上げて、起業家の創出に取り組んでいます。

また、市でも独自の企業支援を行い、若い力を丹波市に集めたいと思っています。

井上さんも引き続き丹波市に足を運んでいただき、応援していただければ嬉しいです。

できれば卒業後も丹波市と関わりを持っていただければお願いをしておきます。

武庫川女子大学とも丹波市しっかり連携しておりますので、ぜひよろしく願いいたします。

それから、上田さんご意見ご提案ありがとうございます。

丹波市に来ていただいて、穏やかな空気感に心が安らいだというのは、私としては大変うれしいフレーズでございました。

一方で、車を持たない若い人たちの移動の大変さもよくわかります。

先ほどの発表でもありましたが、地元にいる人が本当に不便だということを言ってました。それは認めるしかないところです。今、車を持たない人たちが気軽に周遊できる方法、これを、先ほどの提案でもありましたが、何が良作なのかということを考えたいと思います。

こう言って同じような提案がね、お2人から出てきましたので、どういうことをすれば一番そう若い人たちの足になれるのか。その辺については考えていきたいと思っています。

■武庫川女子大学生活環境学科4年生 上田さん

交通の便でいうと先ほど話のあったレンタルサイクルの案は私もすごくいいなと思いました。気軽に移動手段としてはすごくいいなと思います。そこに追加すると、シェアカーやあとはオンデマンドバス、オンデマンドタクシーといった、好きな場所で好きな時間に予約して乗ることができる交通手段があればもっといいかなと思いました。

■市長回答

先ほどもレンタサイクルの話が出た際に私も言いましたが、重宝しているという話を聞いてますので、ぜひ考えていきたいと思っています。オンデマンドバスの話は今、丹波市では、市民は登録しておく、自宅まで迎えに来てもらって、病院や商店に行くことができるというサービスを実施し

ています。

市外の人は予約が必要だったと思いますが、何時の電車で行くのでそこからどこかの施設へ行きたいということができるかどうか。担当課とも相談しながら、検討していきたいと思います。

■市回答/ふるさと創造部 清水

色んな移動手段というのは今も考えております。特に学生のみなさんが丹波をフィールドに走り回って貰っている。その手助けになるような方法について引き続き検討していきたいと思います。

■ 武庫川女子大学 経営学部3年生 松田さん

私たちはゼミで、丹波市との連携事業として、丹波大納言小豆のPRリーフレット作成事業に参加しています。

私は所用で参加できませんでしたが、3日前に松岡さんと住民のみんなが丹波市に現地取材に行きました。

たくさんの方からの話を伺い、丹波大納言小豆に対する強い熱意や思い入れを感じたので、頑張ってPRリーフレットの作成に取り組もうと思います。

今回は四つの意見交換のテーマがあります。

私たちはこの四つのいずれについても、丹波市を好きになることが重要なことだと思いました。

中でも特に私たち大学生や子育て世代の若い世代が丹波市の好きになることが一番重要であると考えています。この点について私なりに考えてみました。

子育て世代や現役世代が丹波市を好きになるために、子育て支援が充実していることが重要だと考えます。子育て中の母親のSNSなどでは、ワンオペ育児といった言葉をよく見かけます。

これは日本全体として、子育て家庭への補助や周りの協力が足りていない現状があるからではないでしょうか。まずは子育て世代を自信を持って受け入れる体制を早急につくることが重要であると考えます。

丹波市の2022年当初予算にあった妊産婦のタクシー利用助成は、産後の女性や子供の面倒をみながら買い物をする必要がある母親にとって、とても素敵だと思いました。

実は初めて丹波市に行ってみて感じたことのひとつに、車がないと生活ができないのではないかと不安がありました。このことは子育て世代だけではなく、幅広い世代に関連することだと思います。そのため、車がなくても生活のできる仕組みづくりは重要な施策の一つだと思います。

一方で支出収入はある程度あっても、子育てにそれ以上のお金がかかるためこそ、子どもを産むことを諦める家庭や、出産後に資金面で苦労する方も多いと聞きます。

丹波市の政策では所得に応じて助成金があるものの、一定以上の所得がある場合は補助を受けることができません。所得制限を設けずに、医療費、給食費、保育料などの免除を行うことは大きな魅

力の一つになると考えました。

とにかく、子育て世代が増えるということは町の活性化に繋がると思います。

それは同時に子育て世代以外の家庭にも住みやすい町に繋がると考えます。

なので子育て世代中心に施策を進めていくことは、メリットがあると考えます。

また丹波市は黒豆や小豆などを始めとした様々な特産品があり、まちが山に囲まれている自然豊かな市であることから、子供にとってはとても魅力的な場所であると思います。

子供が伸び伸びと外で遊び暮らせる環境は、子育てにおいてとても重要だと思います。

実際に都市部のマンションなどが立ち並ぶ町では、公園が少ないことや、外で遊ぶと苦情が来るなどと、子供の頃にしかできないことを制限されてしまうことが多くあります。

そのため、屋内でのゲームやアニメがその中心となってしまう、外の人間関係が希薄になり、様々な弊害が生じているように思います。

人は幼少期の環境に大きな影響を受けて育つと思います。

幼少期に良い経験をしたと感ずることができれば、地元が好きになると思いました。

そのため、子供が自然の中で思いっきり遊べる環境を用意し、丹波市で育って、丹波市を好きになった人が、丹波市で子供を育てようと帰ってくるのではないのでしょうか。

このような理由から、子育て世代の強い味方になるような政策の実施を期待しています。

少し時間はかかるかもしれませんが、若者を引きつけるためにも、まずは子育て世代と幼少期の環境に注力することが、丹波市を好きになる、丹波市が帰ってきたい場所になる一番の理由になるのではないかと考えます。

■市長回答

私も市長になって2年経ちました。今年度の施策の重要な課題として子育て施策を挙げています。その中で、全てを無料ということはできませんが、妊娠してからですね、妊娠がわかったときに、最初に行く病院の手数料から始まり、ずっと子育て中もということで、そういう支援をしていこうということで、子育て世代に対して、住みよい街になるようにと考えています。

また保育料は無料になりましたが、何もかも免除というのは短期的にはうれしいことかもしれませんが、年をとっても住み続けたい、住み続けられるまちとしては、そのしわ寄せが来て、暮らしにくくなる恐れもあります。

私は誰もが末永く暮らし続けられるまちを目指して、重点的に進める施策と、全体のバランスを考えながら検討していく必要があると考えています。

そんな中で、母親になって丹波市で暮らしやすいとしたら、優先するものを一番優先したいのは何でしょうか、そのことについてお答えいただければと思います。

また、地元を好きになる郷土愛というものは、帰ってきたい、帰りたい場所、丹波市として作っていきたいという私にとっては、本当に動機づけの一つとして大事なものだというふうに考えてます。私も市長就任時の所信表明では、「ふるさと丹波市への郷土愛を心に宿し、将来の丹波市を担っていく人づくりを進めます」というふうに言わせていただきました。

そのため小学生のときから、丹波のことについて学ぶ丹波ふるさと学などで、心の教育を行っているところがございます。

生まれ育ったふるさとを好きになる気持ちはとても大切だと思います。

松田さんは、自分のふるさとのどんなところが好きだと考えておられるでしょうか。

それから、周囲の協力ということをおっしゃられましたが、それがとても大事なことで、私の住む小学校区ではですね、「地域が子供を育てる」ということを、ステッカーに貼って、地域に建てています。

地域で子供を育ててね、こういうことも大事なんだなという風に思っています。

父親がしっかり子育てに参加する、これはお母さんに対しても、すごく大事だと思っています。

私も当時はしっかりと子育てをしてきたというふうに自負しています。

■ 武庫川女子大学 経営学部3年生 松田さん

出身は高砂市なんですけれども、高砂市は給食が無料です。

私たちも割と田舎なので、登下校時には地域のいろんな方が、声掛けをしてくださったりしました。一番大きいところは、祭りがあることで、祭りのために、私たちの世代でも出ていった人でも祭りの時期になったら帰ってきたりもして、そういう行事があるのもいいことなのかなとは思っています。

■ 市長回答

私も、松田さんと同じことを思っています。

このコロナになりまして、私も5月の連休明けからですね、コロナに負けず、これから対策をしっかりして、お祭りと地元のイベントをしっかりやっていきましょと市民に呼びかけています。

第7波の影響を受けて、少し勢いがなくなりましたが、地域が子どもたちと関わって、祭りやイベントで、子供たちに郷土愛を育む、これやっぱり祭りとかイベントに参加した記憶っていうのは子供にとってはとても大きなことだと思います。ぜひ、そういう風に私たちもやっていきたいと思っています。

■ 武庫川女子大学 健康スポーツ科学部 矢野さん 長谷川さん

私たちは、丹波市出身ではありませんが、大学のゼミで丹波市と関わっています。

活動内容は、小学生の体力向上を目的とした実験研究を行っています。

丹波市内の小学校に運動プログラムの入った冊子を配布しています。市長さんもぜひ、実践してみてください。

では提案にうつります。

一つ目、アスリートが本気でトレーニングできる環境を作り、プロ、アマチュアを問わず、練習拠点にできるまちです。

アスリートが、トレーニングや練習できる環境を作ることで、誰もがプロと同じ環境で練習やスポーツに取り組むことができます。

また、そういう環境を設け、それを開放する機会を作ることで、他のスポーツに取り組む方々が、その町に住みたいと思うようになると思います。

またそこでイベントを開くことで、観客が来る際に、丹波市の特産物などを売ることで、丹波市の魅力発信にも繋がると思います。

スポーツを起点にして地域の活性化を図り、住みたいと思えるようなまちにできると考えています。

2点目は、これからは第一次産業が活性化していく時代になると思っています。アグリテックなど、林業や農業が ICT を積極的に取り入れて、若者が第一次産業に取り組もうとするまちです。

特に若い人は ICT に強いと思います。そこで農業に目を向けさせて、そこで働くという環境を、設ければいいと考えています。

また、今はコロナ禍で、就職難民が増加している傾向にあると思います。

ICT を活用することで、そういった就職難民の方々に、仕事を提供することができると思います。

そういった面でも、来てくれる住みたいと思えるまちになると考えております。

次に私から二つ提案させていただきます。

一つ目が、母子家庭や共働きの家庭で家事の負担が多いと感じる家庭に家事代行サービスを導入し、市が料金の負担をする施策を行っていただきたいと思います。

二つ目が、介護施設を増やし、軽度から重度の人でも受入れることで、自分の仕事と親の介護の両立を図り介護による早期退職を防ぐことに繋がるのではと考えています。

■市長回答

まず、矢野さんのご提案から。

アスリートがトレーニングできる練習拠点など、個性的なまちづくりの提案ということで、大変幅広いご意見をいただきました。また ICT の活用や環境の充実はについても、どちらも本当に丹波市にとって大事なことだと思ってます。

第一次産業の活性化の話は、農業にも ICT を取り入れようという話は今、だいぶやっています。それは ICT ではなくて、スマート農業という名前ですがね。例えばヘリコプターの農薬散布なども活用しながらということを今取り組んでいます。

逆にちょっと矢野さんに、お聞きしたいのが、アスリートの練習拠点として、まず必要なものはどんなものをイメージされてるのかちょっとこれお伺いしたいと思います。それから、二つ目の、二つ目には芸術ということを言われましたね。芸術を志す人。これについてもいろいろとあると思いますが、どんな芸術の町とは、どんなイメージなんでしょうかこの二つのイメージをちょっと教え、お聞かせ願えれば、そのあとまた参考にしたいと思います。

■ 武庫川女子大学 健康スポーツ科学部 矢野さん

まずアスリートがスポーツをする環境をつくるにあたってどのようなものが必要になるかについてです。

まずはスポーツをするにあたり、アマチュアやプロ問わず、練習ができる環境が必要になります。また、暮らしにあたっては働ける場所や住まいを提供することが提案できるかなと思います。

次に芸術の町についてです

創作にあたって、イメージというものが大事になってくると思います。

丹波市の自然の豊かさを感じながら自分の想像力や感性を沸かせて創作意欲を発揮させていく。そのようなまちにしていければと思います。

■ 市長回答

たくさんのおもしろいアイデアをいただきましたので、それぞれについてまたこちらでも検討していきたいと思います。

それでは、長谷川さんからも提案については福祉部長からお願いします。

■ 市回答/健康福祉部 高見

まず母子家庭の父子家庭への家事支援についてお答えします。

丹波市では現在、高齢者の方へは介護保険制度の中で、1時間当たり 600 円という家事支援という、通常でいくと、料金設定がされとるんですけど、そのうち、高齢者の方は 200 円で、家事支援が受けることができます。

ご提案いただいていることにつきましては、この制度の母子家庭、父子家庭版になるのかなと思います。

現状では、母子家庭であったり、父子家庭の方には、児童扶養手当というようなそういった金銭的な支援をしているところです。

高齢者については年金暮らしなどで、金銭的な支援というのはほかには今のところありません。介護保険制度の中で、そういった支援をしているというところです。

現在全国的に注目をされているヤングケアラーについて長谷川さんはご存じですか。

ヤングケアラーへの、例えば家事支援やホームヘルプをしてる自治体がちらほら出てきているというような状況でございます。

今日ご提案いただいたことを含めて、また今後とも、ご意見を尊重して考えて参りたいと思っています。

それともう 1 点介護施設を増やすことについてです。

これには 2 点大きな課題があります。

1 点目は、財源的なこと。また高齢者の方ですと保険料負担ですね。そういったところが大きくなるという点。

2点目は、介護の人材が丹波市だけでなく、全国的に不足しているという状況です。
例えば介護施設を増やすとなると、丹波市に100床程度の施設を建てるということになると、保険料の額がかなり負担が必要になります。現実的なことを言いますと、その負担というのは、私たちや高齢者の方に負担を強いることになり、なかなか厳しいなと思っております。

■市長回答

お二人からなかなか鋭い意見が飛び出してきましたので、私を一番困らせてくれました。それはとてもありがたいことです。簡単に答えられる質問だったらあんまりおもしろくないのでね。こちらが頭を悩ますような質問やご提案をたくさんいただいて、良かったかなと思います。お二人から他に私に対して言いたいことは何かありませんか。

■ 武庫川女子大学 健康スポーツ科学部 長谷川さん

最後、介護の施設の件で、負担などのふたつのデメリットの一つ、人材不足という点において、矢野さんが一番最初に提案したアスリートが本気でトレーニングできる環境を作って、プロアマチュアを問わず、練習拠点にできるまちというふうに提案させていただいたんですけど、あと、アスリートが住むことで、働ける環境づくりが整うため、人材不足も防げることに繋がってくるのではないかな、アスリートが、介護のお手伝いをする。

そういう事で人材不足を防げる事に繋がってくるのではないかなと考えています。

■市長回答

本当に面白くて、発想を転換した提案をいただきましてありがとうございます。
福祉部長も言いましたように、丹波市としては介護できる職員が不足しています。介護職に就職すると、補助金を出したり、介護職の資格取得にかかる費用の補助など、少しでも介護職の人材が増えるような取り組みについては取り組んでいます。ぜひその介護人材も確保していきたいなというふうに思います。

■市長回答

最後に今日参加してくれた皆さん。少し時間がありますので、私から全員に質問したいと思います。
丹波市は情報発信が下手というふうに言われてます。確かに皆さんのところに情報が届いていないというのは、そうかもしれません。そこで1つ目の質問は、皆さん丹波市のホームページを見たことがありますか。見たことがある人は、その率直な感想を聞かせてください。「見やすい」「わかりにくい」などで構いません。

■ 兵庫県立大学減災復興政策研究科 北脇さん

僕は自治体の災害対応をまとめるときに、過去の災害事例を丹波市のホームページから持ってきた

んですけど、他の市は結構そういうのが無く、特に災害当時のものはあんまりなくて、復興の経緯とかあるんですけど、そういう部分ではすごいまとまって見やすかったですね。

■ 福知山公立大学3年 加賀山さん

私も大学のレポートや調査で使ったことがあります。そこまで不便とか、わかりにくいとかはなくて、すごいまとまってるなと思っていました。

■ 丹波市立看護専門学校 大垣さん、根本さん

暮らしの情報、仕事の情報、観光情報、市政情報っていうふうに分けられていて、自分が知りたい情報についてまずどの項目を開けたらいいのかっていうことが大きく、表示されているのでとても使いやすいなと思っています。

■ 市長回答

私は市長になる前は議員をしていましたが、当時、ホームページが見にくい、もう少し工夫してほしいと提案したことがあります。しっかり修正してくれたんだというふうに思います。

それでは二つ目の質問です。

今回提案の中にも ICT や SNS の活用の提案を多くいただきました。

長谷川さんとの意見交換の中でもお話ししましたが、現在、丹波市のライン登録者数は約1万1000人。

人口6万人のところで1万1000人が登録いただいています。

Facebookのフォロワー数は約5000人、これも先ほど言ったようにFacebookちょっと人気ないですね。これが現状です。

本当は市民の皆さんに登録していただくと、アンケート調査とかしやすいですし、ホームページで情報を探さなくても、皆さんにお知らせしたいところがすぐに発信できるので、このSNSなんかの登録数はうんと増えてほしいと思っています。先ほど、インスタの方が若者に人気があると伺いましたので、ぜひアカウントを取って始めてみたいと思っています。

その他にラインが1万1000人、フェイスブックは5000人ですので、これをもう少し、例えば市民の4割3割の方に登録いただけるような、何か良い方法があれば、お願いしたいと思います。

うちがね、ラインを開始した時は他の市はあんまりしてなくて、もう、兵庫県でもナンバーワンに登録者数増えましたがその1万1000人で止まっています。

もう少し登録者数を増やす方法があれば、ありがたいので皆さんの新しい発想で良い案をいただきたいと思います。

■ 武庫川女子大学生活環境学科4年生 井上さん

私は川西市民ですが、ラインがあるというのは知りませんでした。丹波市ではイベントやマルシェ

などをたくさんやってると聞いたことがあります。そういう時に、何かお得なクーポンがもらえるとか、あと丹波市の施設をライン登録してたら割引があったりとか、そういうものが、今もやってるかどうかちょっとわからないんですけど。

何か登録したメリットがあるっていうのがあったり、あとそのイベントとかで、QRコードとかを誰でもすぐにできるようにあれば、気軽に登録しようっていうふうに思えるかなとは思いました。

■市長回答

私が知ってる、丹波市のラインでクーポンを出してるのは、誕生日をみんなに祝ってもらえるクーポンとか、そういうのは配ってるなというのを見たことがありますけど、やっぱ花より団子ですね。物が来ると、やっぱ嬉しいですね。割引あるとね。

井上さんありがとうございます、もしね、できればそういうことも考えてみたいと思います。

■ 武庫川女子大学 健康スポーツ科学部 矢野さん

今、ふたりで話してたんですけども、例えば、インスタグラムだけでなく、TikTok っていうものも、今、若い人たちには人気があるので、そういったところで、例えばバズってる今、バズっているダンスであったり、そういう企画を市長さんが自らから取り組むことで、市長さん自身の、そのことも知ってもらえるし、丹波市の魅力発信にも繋がると思います。

またそこで、このラインの宣伝をしても、登録者数が増えるかなと考えています。

あとは、丹波市ゆかりの有名人を起用した。例えばTikTok 配信であったり、インスタライブ、インスタグラムで行えるライブっていうものをやってみるのも一つ、丹波市の魅力を伝えるのにいいかなと思います。

■市長回答

こんなおじさんが踊っても、バズらないと思いますけども。

私のTikTok 見た時はなんかこう踊ってるなっていうのは、そういう画像が多いなと思うんですけども。こんなおじさんだったら、盆踊りぐらいしかできないですけども、今どきのことで考えてみたいと思います。

私広告となるのは全然もうやぶさかではございませんので、もうせっかく長谷川・矢野さんに、しっかりと応援いただきましたので頑張りたいと思います。

■市回答/建設部 里

貴重なご意見有難うございました。

また、バズる方法というのを教えていただき、参考にしたいと思います。

■市回答/産業経済部 岡林

私、産業経済部というところで、観光や商工業、あと農業林業の振興を担当する分野なんですけど

も、いずれも今日皆さんからいただいたご意見、各分野に非常に良い参考になるといいますか、今後の取り組みの中で取り入れていきたい、また検討していかなければならないことばかりでした。ありがとうございました。

■市回答/健康福祉部 徳岡

皆さん、貴重なご意見ありがとうございます。

私は子育て支援や健康関係、看護専門学校を所管しています。

特に情報発信というところ、いかに重要なお知らせ、そういったものが必要な方のお手元に届くかというところですね、その辺りは今後非常に意識して取り組まなければならないことだと思いますので、頑張っているいろんな部局と一緒に、届くようなことを考えていきたいと思います。

■市回答/ふるさと創造部 清水

みなさんありがとうございました。

特に情報発信というところで、丹波市の中では力を入れていきたいなというふうに思ってます。

やはり一番大事なこと、今日皆さん、参加いただいた若い方々が、丹波市をフィールドにいろんな活躍をして欲しいなというふうに思ってます。

その活躍ができるだけの環境をどれだけ私たちが整えられるかなというふうに思ってますので、自分たちが丹波でこんなことをしたい、或いは、卒業したらこんな仕事をしてみたいというふうなことがあれば、どんどんね、ホームページや直接でもいいので、いろんなご提案を、ぜひいただきたいなというふうに思っています。

皆さんの夢や希望が叶えられるようなことが、できればいいかなと思ってますので、またぜひご提案をお願いしたいと思います。

■市回答/健康福祉部 高見

今日は貴重なご意見ありがとうございました。学生さんとして、できることから丹波市にお力添えをいただけたらと思います。

■市長回答

私ね、先ほど言いましたように、フェイスブックしっかりと毎日発信してますので、ぜひご覧いただいてですね、そこにでもいろんな意見を書き込んでいただいたら、またありがたいと思います。また、看護学校の2人、うちの娘2人は看護、看護学校の卒業生でございまして、2人とも卒業生でございまして、後輩になると思いますので、あなたたちが卒業する時には私がまたご挨拶に行くといいと思いますのでその時はちゃんと手を振ってくださいね。

あと、皆さんね、本当にいろんな意見をしっかりと出さってありがとうございました。

これズームだったらまたこれ良いところもありましたね。

実際本当は顔見て、本当はこうやってね、表情を見ながら話すのが本当はいいんだろうけど、ちょ

っところ密ですので、マスクさしていただいておりますけども、実際にみあって話すのも本当は、私大好きだし、人は集ってそこで話したりご飯食べたりすることから、地域づくりが始まると思ってるので、ズームは最初になった時にちょっと、うう～んと思ったんですけど実際こうやって慣れてみると、こんだけ遠く離れている人が今同時にパツてしゃべるという、やっぱりこれね、こういうだけ世の中変わってきたんだというようなことも思いながら、これでも十分皆さんと意志の疎通ができたんじゃないかなというふうに、思ってます。